**青嵐会の勇士・慎太郎の国政復帰を！**‏

　　　　　 　　　 　 　２０１１年１月５日

嵐の海に漂流する日本、全ての政党は国民の信頼を失っている。国民が選択すべき政党がない。これを一番恐れている。（２０１１年／元旦／朝日、読売・社説）

**★第二次「青嵐会」旗揚げの秋である！**

**★石原慎太郎はただちに国政に再度復帰せよ！  
★都知事は息子の石原伸晃に任せるべし  
★「青年の樹」の歌が日本を救う。日本国民全員で歌おうではないか！**

**★青嵐保守の政治軍団が、「太陽の国・日本」を復活させる！**

**１、第二次「青嵐会」旗揚げの秋**

昨今は『嵐・アラシ』のブームのようだ。『嵐』の若き歌謡軍団は、次々とヒット曲を出し続け、遂に年末の日本国家の最大の祭典である「紅白歌合戦」で白組の司会をも担当し、国民的な大喝さいを受けている。日本は、国家安全保障、政治、経済共々嵐の中で２０１１年を迎えたが、この様な中で『嵐』が国民的な人気絶頂気にある事は不思議なことだ。  
■かつて日本には嵐を呼ぶ男がいた。戦後最大級の大スター・石原裕次郎だ。デビュー以来引退するまで芸能界、映画、テレビ世界，レコード世界をリードした。トップスターの天与の星の基に生まれたのだ。やがて政界にも嵐を呼ぶ男が現れた。裕次郎の兄貴である石原慎太郎・現東京都知事である。彼は二十歳のころ『太陽の季節』で芥川賞を早々と獲得し、三島由起夫と並んで戦後日本の文壇に彗星のごとく現れた、天与の「嵐を呼ぶ男」であった。  
■やがて保守の愛国者となった二人は、占領軍に骨抜きにされた、日本伝統と精神、日本の文化と礼節、日本再興の為、政治世界の矛盾との戦いを開始した。　三島はノーベル賞候補者とまで言われていたが、『憂国』、『豊饒の海』、『英霊の声』、『日本文化防衛論』などを著し、「盾の会」を組織して「国防の重要性」の啓蒙にも本腰で取り組み、最後には市谷の自衛隊駐屯地で遺言としての「憲法改正」を叫びつつ自害　した。  
■石原慎太郎は、愛国の情を「嵐すさぶ」で始まる『青年の樹』の歌を作詞した。

★「多感の友よ、思わずや、祖国の姿今如何に、明日の夜明けを告げるもの、告げるもの、我らをおきて誰がある、国を興せ、青年の樹よ」と歌い続け、自ら参議院全国区に出馬した「真正保守の騎手」であった。空前絶後の３００万票・奇跡的な大勝利であったが、以後の選挙からは衆議院へと議席を移し当選を続けた。  
戦う保守主義、革新的な保守主義を掲げ、熱情をもって、経済至上主義のリベラルと惰性に堕ちた覇気なき自民党に戦う気合いを吹きこんだ。田中派主導の乱暴な日中国交回復、「台湾切り捨て」の無情なやり方に抗議　して自ら「青嵐会」を１９７３年に結成し、幹事長に成り、「忘恩背徳の民に成るな！台湾を見殺しにするな！憲法9条を破棄せよ！自民党は改憲に起て！」等など田中派支配下の自民党に真正面から挑戦もした。当時田中派に宣戦する事は命懸けの時代だった。「嵐を呼ぶ男」・石原裕次郎の兄貴石原慎太郎もまた若き獅士であり政界に嵐を呼ぶ男であり「青嵐会」のリーダーだったのだ。

**２，元旦の各紙「社説」から**

**■朝日新聞・元旦・社説**「なんとも気の重い年明けである。民主党が歴史的な政権交代を成し遂げてからわずか１年４カ月。政治がこんなに混迷に陥るとは、いったい誰が想像しただろうか。・・・ムダ退治と予算の組み替えで、財源はいくらでも出てくる。そう言ってあれも、これもの公約を掲げて、民主党は選挙に勝って政権交代を実現したが、財政がから手形だった事は隠しようがない。甘い公約は疑い、苦い現実を直視する事が大切である事を国民も学んだ。・・・自民党は早期解散に追い込むという。だが自民党への支持は戻ってこない。このまま選挙になれば、投票先を失った有権者が路頭に迷うであろう。それを恐れている。・・・菅首相は、たとえば公約を（マニフェスト）を白紙に戻し、予算案も大幅に組み替える。・・覚悟が問われている。」  
今まで公約を守れ！とは聞いて来たが、つい先日の選挙の「公約を白紙に戻せ」「公約を忘れろ」とは聞いたことがない。即ちこの事は「政権を放棄せよ！」という事であり、民主党は間違っていた。マニフェストは間違っていた。間違って政権を、偽証選挙で政権を取ってしまったと、明言しているのと同じである。自民党政権を激しく攻撃し、政権交代のフロントラインにあって民主党政権の立役者で有った「朝日新聞」の失望も隠せない元旦朝日社説であった。

**■読売新聞・元旦・社説**「波高く、四海の海は波高く、今にも嵐が襲来する恐れがあると言うのに、日本丸の舵取りは甚だしく心もとない。このままでは漂流どころか、沈没の危機すらある。いったい、我々はどこに行くのか。新しき年に希望を膨らませ、日本人である事の誇りをどう築くのか。この問いに答えられる、強靭な指導政治指導力が求められている。一昨年９月の政権交代から、１年３カ月余り。この間３党連立政権崩壊から鳩山前首相退陣、菅後継内閣へと民主党政権の表紙は替わったものの、政治の機能不全が続いている。懸念すべき政治現象の一つが、日本の存立にかかわる外交力の劣化現象である。それを如実に示したのが、尖閣諸島の中国船衝突事件とメドベージェフ露大統領の北方領土視察であった。日米同盟の亀裂を見透かした中露両国の露骨な揺さぶりに「主権」をないがしろにされた菅直人政権は、自らの非を正すどころか、ただ波風を立てる事を恐れて、軟弱に終始したのだ。・・・・どれもこれも外交・安全保障の基軸である、日米同盟をおろそかにしたからである。・・・民主党が鳴り物入りで実施した事業仕分けで捻出した金は微々たるものであった。しかもその金は借金の返済ではなく、子供手当や、高速道路無料化、農家の戸別所得補償など、バラマキの一部に充てられた。…菅首相は、政権公約（マニフェスト）を撤回　し、バラマキ政策を見直したうえで、消費税率の引き上げを野党側に提示して、速やかな合意を得るように汗をかかなければならない。…その上で、『救国連立政権』を作る以外に道はない。・・国の在り方を変える、『平成の改新』を実現する為、党派性を超えた、構想力と大胆な行動力が、今の政治に求められている。」

◆★読売は１月３日の社説で「民主党マニフェストの見直しと、連立による安定政権の確立」を主張し「政界再編の時である」と主張している。

**■日本経済新聞・元旦・社説**「めでたいとは言い難い年明けだ。日本経済はリーマンショックを何とか克服したものの、本格的な回復への手掛かりをつかめないままに年を超した。この２０年間の名目成長率は年平均で、０．５％で公的な借金は３．３倍に増えて、先進国では最悪である。経済の地位低下が安全保障をも脅かす悪夢を、日本人は尖閣諸島問題などで見た。この総合的な停滞は放っておいて自然に解消するものではない。・・・６５歳以上の人が増えて、社会保障支出が急増し始め、働く人が年に０．７％程度減り、経済の成長を抑える。経済が拡大せず、このまま公的な債務が膨らめばとうからず国は破綻の危機をむかえる。・・・・経済再生への機会を生かせるかどうかは多分に政治家次第だ。外科手術が必要なのに、痛み止めばかり与えている。そんな政策を、民主党政権は、自民党政権同様に続けている。八方美人政策では有害でしかない。嫌われても、嫌われても、必要な政策を断行するキャメロン英国首相（４４）の勇気を見習うべきである。・・・政治家と経営者は日本経済の大転換期に重大な責任を持っている事を自覚して欲しい」

**３、真正保守・石原慎太郎・新党の出陣に期待する！**

**１）青嵐会について**青嵐会が出来たのは１９７３年石原慎太郎４０歳の時である。青嵐会の会名は、石原慎太郎が命名した。「混沌とした政界に新風を送り込む」との意味が込められていた。設立趣意書には「いたずらに議論に堕すことなく、一命を賭して、右、実践する」とあり、結成会員の名簿には、石原慎太郎の提案で３１名全員の『血判』が捺印されていたのだ。  
中華民国・台湾支持の立場をとり、田中首相の中華民国・台湾断交絶対反対の姿勢を貫いた。自民党議員の北朝鮮訪問を実力で阻止したこともあった。

**青嵐会設立趣旨は、**

（１）自由社会を守り、外交は自由主義国家群との緊密な連携を堅持する。  
（２）国民道義の高揚を図るため、物質（経済至上主義）の風潮を改め、教育の正 常化を断行する。  
（３）勤労を尊び、恵まれない人々をいたわり、新しい社会正義を確立するために、富の偏在を是正し、不労所得を排除する。　　　　　　  
（４）平和国家建設のため、平和は自ら備える事によってのみ勝ちち得られるとの自覚に立ち、　国民に国防と治安の必要性を訴え、この問題と積極的にとりくむ。  
（５）新しい歴史における日本民族の真の自由、安全、繁栄を期するために、自主憲制定する。  
（６）党の運営は、安易な妥協、官僚化、日和見化の旧来の弊習を打破する。

■３８年も前の事であるが、１９７９年青嵐会が解散されるまで青嵐会は、池田隼人総裁以後リベラル化しつつある自民党の中で、保守の中の保守であり、期待されていた真正保守の存在であり、有力な議員の集団でもあった。自民党には出来なかった、自主憲法制定と戦後レジーム解消および、有徳国家・日本再建の為「第二次青嵐会」・「石原保守新党」の立ち上げが急務である。

**２）第二次「青嵐会」旗揚げの秋**

★自民党は立党時に「自主憲法制定」を掲げて、ＧＨＱの日本国家改造計画の中で意図的に、戦略的に末梢されてしまった、日本の伝統精神、歴史、文化、伝統、礼節などを復帰すべく１９５５年１１月１５日に立党されたのである。しかしいまだに改憲は一歩たりとも実現できず、戦後レジームは残存している。「経済至上主義」、「生活が第一」の日本に、三島由起夫も警鐘を鳴らして殉死したのである。国家こそ愛すべきものであると。「国家の為に生きること、愛する国家を守護すべきこと」に第一義の価値を置くべきことを。「人はパンのみにて生きるにあらず」と。その占領政策の結果、経済だけでなく、国民の精神的な荒廃は目に余り、枚挙にいとまなき昨今の日本となり、とても誇れる日本では無くなっている。  
★自民党は、２００９年９月に、野党に成ったので、今度こそ憲法改正に殉じるかと期待したが、全く期待は裏切られた。　一センチも前進なしで有った。　眠り続けたウサギのように眠っているようである。やる気がすこぶる乏しいのである。２０１０年１月の自民党大会でも憲法改正は第一のテーゼであったが結果は駄目であった。自民党も、選挙詐欺集団の民主党と大同小異の詐欺集団であると言われても否定できないであろう。沖縄・普天間問題や，尖閣問題のこの一年は、憲法改正を正面から打ち出すべき、最高のチャンスの時で有ったのに。自民党に天運が到来する日は無いように見える。ハト派・リベラルの宮沢喜一、加藤紘一の派閥で彼らに師事していた谷垣貞一総裁には、改憲に殉じる覚悟は無いようだ。自民党の使命は既に終わり、ながい徳川時代に終わりを告げる、明治維新を迎える時の徳川幕府に自民党を例えられるかも知れない。  
■民主党政権も、中国軍の尖閣諸島侵略で醜態をさらし、仙谷由人は弁護士らしく犯罪者、民主党政権の失敗を、低次元の弁護士活動のように言いくるめて惨めな結果になった。民主党は「政党の命である・民主党の綱領」が無い。安全保障政策は、バラバラで無きに等しい。辺野古崎の海を見て鳩山由起夫も、小沢一郎も、福島瑞穂・社民党党首のように「辺野古の海に、基地を作って、美しき海を汚してはいけない」「辺野古に基地を作る事は、自然への冒涜とくである」と反対の理由を述べていた。沖縄を知らないもののネジ曲げた言い分であり、辺野古崎こそがあまりのも理想的な基地の場所で有り、まさしく神様がこの日に準備しておいてくださったような良き場所なのである。この事は１００回でも１０００回でも言いたい位である。

★陸上・普天間には、騒音問題や離発着時の危険問題があるから基地移転するのであるからして、陸もダメ、海もダメとは空中基地しかないではないか。宇宙人的な非常識な見解と言葉である。「ルーピー」なのである。まじめに安全保障など考えていない言葉である。  
★民主党マニフェストにも、鳩山施政方針演説にも「日米同盟の言葉一言も入っていない」と川口順子議員から予算委員会で糾弾されていたのだ。国民から、朝日、読売社説のように絶望的な評価になってしまったのである。  
朝日新聞１月１日の社説「このまま選挙になれば、投票先を失った有権者が路頭に迷うであろう。それを恐れている」との指摘は現実を正しくとらえている。

**４、石原慎太郎・解放者モーゼのごとく今起て！**

■エジプトの地で苦悩するイスラエルの民を解放すべき天からの声を彼が受けたのは８０歳の高齢の時であった。彼はシナイ山で神に出会い「道徳律である・１０戒」を天から石板に授かったのである。これを指針として６０万イスラエルの民をカナンの地へと向かって「出エジプ」を決行したのである。詳細は「旧約・出エジプト記」に譲るが、神が高齢のモーゼをサポートして、アロンとミリアムをモーゼの口、手足として送り、幾多の奇跡的な援助を神から受けて、紅海をわたり、遂にカナンの地に至り、イスラエル王国を建国したのである。モーゼは途中で倒れたが、ヨシュア、カレブに使命が受け継がれ初期の目的は達成されたのであった。  
■石原慎太郎はモーゼの使命がある。デッドロック下にある日本の内政、外交の幾重にも先送りされた困難な課題が山積みにされ、日本列島を包囲している。これを打ち破ってゆくには、神が予定し、訓練し、準備してきた人物でなければ不可能である。  
明治の日本では、坂本竜馬のような若き獅子・志士たちが神様に用いられて世界史的な奇跡をやってしまったが、寿命の伸びた現在の日本では、石原慎太郎、中氏根康弘などのような８０、９０のモーゼのような人物が天の前に起つのであります。　嵐すさぶ日もあらん「祖国の姿今いかん、われらをおきて、誰がある、国を興せ！青年の樹よ」との歌を、今こそ石原を先頭に日本全国の青年が歌うときである。「青年の樹」の歌が日本を救うのである。この歌が日本の精神、愛国の精神を全土に響かせるのである。

**5、石原新党・真正保守党・第二次青嵐会・が日本を救う！**

**１）岸信介、中曽根康弘を名誉総裁にすること。**二人はシンボルに成る。党旗と同じで重要であり、岸は既に天界にいるが象徴、シンボルなので問題ない。その政治姿勢を継承するの意味であり、党旗以上のシンボルではないか。中曽根は解放者に神が予定していた日本版モーゼのような、石原の先駆者であり、現代の坂本竜馬であった。いまだにお元気なのでシンボル以上である。相談もできる。天が中曽根を長生きさせてきたのはこの日の為である。同じく石原慎太郎も文壇で、国会議員として２５年も、都知事として１２年も大活躍をしてきたのは、そして８０歳に近づいても元気なのは、天が共にあるからであろう。　岸信介元首相は、「５０～６０鼻たれ小僧、７０～８０働き盛り、９０に成って迎えが来たら、１００まで待てと追い返せ」と意気健康な９０歳であった。多分中曽根さんもこの言葉を知っている事でしょう。石原慎太郎もやがて生きていても、死んでしまっても「日本共和党」の名誉総裁に成るべきであります。名誉総裁は三人で締め切りにします。

**２）以下の方々を名誉顧問に置くべきである。**聖徳太子、空海、坂本竜馬、西郷隆盛、新渡戸稲造、等など。慎太郎氏が良かれと思われ人物を名誉顧問に加えるべきであります。保守主義者として民族の歴史を継承する思想的な視点から、偉大なる日本民族の先人たちの精神を継承する正しい試みであります。合わせて、先祖、そして高齢者を大切にする良き伝統を作らなければならないからであります。我々は死者たちの代理執行者であるべきなのである。彼らの祈りと遺言を成就すべき使命がある。

**３）『日本共和党』が石原新党の党名であります。**★立ちあがれ日本！はスローガンとして活用致します。立ち上がれ慎太郎！です。立ち上がれ「日本共和党」です。「第二次・青嵐会」はニックネームに致します。

**■★「日本共和党」・（仮名案）の理念は、**

①第一の理念は「和をもって尊しとなす」で良いでしょう。和を乱すあらゆる『エゴ』や「対立・闘争」の哲学とは戦うべきであります。平和への戦い・積極的で革新的な「祖国愛と正義と平和の哲学」であります。戦う、燃える熱血の闘志あふれる『和の哲学』が、日本教・日本共和党理念の核心であります。  
②）第二の理念は「啓天愛国」であります。西郷隆盛や内村鑑三、新渡戸稲造の哲学であります。日本哲学の全てが「敬天愛国」に集約されています。  
③新渡戸稲造著『武士道』を基本にした「有徳国家・日本建国」が内的で不変的な「国家目標」であり、党の理念の中核であります。新渡戸・『武士道』を国民必読の教育理念に出来れば、日本は必ず世界一の誇れる「道義国家・日本」を建国で来るのであります。欧米キリスト教世界に対してもまったく異和感が無いでしょう。  
④党の性格：「父性格政党・親父型政党・オヤジ型政党」で有り、母性格政党・おふくろ型政党の「福祉国家論」の政党と、大極では「二大政党体制定着」を目指します。  
⑤米国保守党の「共和党」を友党にし、その世界観、価値観、政策等など参考にし、党員同志の友好親善を計ります。

■★日本のモーゼ・石原慎太郎はモーゼと同じく若くは無い・高齢なので、アロン、ミリアムのような人物が必要なこと。安倍晋三は石原なきあとの後継に考えるべきでしょう。川口順子は日本のサッチャーで、日本最初の女性最初の首相に成れる素質、素養があります。石原→（川口）→安倍と三代で日本は復活致します。共和党・第二次・青嵐会が存在すればのことです。岸→中曽根→石原→安倍晋三の保守本流の政治を定着、伝統化すべきであります。

■第一次青嵐会は３１名でしたが、第二次青嵐会・日本共和党は４０名で出発するべきでしょう。「青年の樹」の歌声を活用すれば、青年をはじめ、団塊の世代・大人たちもみんなこの歌で、教育でき、入党され、１～３年以内に１００万人党員獲得は出来るでしょう。歌は「嵐・アラシ」に歌ってもらいます。嵐の人気が一段と拡大致します。日本中が嵐の家族に成ってしまいます。

「青年の樹」は日本救国の天与の歌で、この日の為にあったのであります。東京でも「スカイツリー」の「大樹」がタイミングよく天空にそびえるのです。『樹』ツリーは、『青年の樹』『嵐』ともども、日本共和党のシンボルなのであります。名前も「武蔵・ムサシ」６３４です。誰が命名したのでしょう。良い名前であり、高さであります。

■石原都知事４選は絶対に禁止です。息子の石原伸晃氏が良いでしょう。幾つかの残った課題は石原伸晃新東京都知事が必ずやり遂げますのでまったく心配ないでしょう。諸事あって伸晃氏が無理であればその代理者が石原慎太郎知事の継承を致します。石原氏は最後は国政で死すべきであります。

★「自主憲法制定・女性言論人会議１００人委員会」を組織して日本の優秀な学者、文化人、言論人の「改憲女性連合」・「女性・青嵐会」を立ち上げ、れば、男性軍は間違っても別働隊を作って動き出します。（１００人を１０００人、１００００人にしても良いかと思います）

★三島由紀夫は市谷自衛隊で改憲に命を賭けて殉死した。石原慎太郎はいまだ生き残っている。彼の死に場所は国会議事堂か、首相官邸である！改憲の為に鍛えた抜かれた最後の力を発揮してほしい！多くの死者たちは、石原を守護するはずである！彼ならば必ずや英霊の声の代理執行者になれるはずである！

★太陽の国・日本に「太陽の季節」を！平成の竜馬・日本のモーゼ・嵐を呼ぶ男・

石原慎太郎に天運あれ！　ゴッドブレッス・ジャパン、ゴッドブレッス・慎太郎！

　　　　　　　　　　　　　　（文中敬称は親しみをこめて、敬称省略）